

# 06

## スマートシティ会津若松

—— 会津若松市、福島県、日本  
2013年～

産学官民が連携したデジタルイノベーションによる地方創生の推進

### Key Issue

会津若松市は、電子部品、精密機械器具、非鉄金属などの製造業や医療福祉業、酒・漆器等の地場産業、稲作を中心とした農業などが盛んな人口12万人ほどの都市である。同市では、近年の産業構造の変化や2011年の東日本大震災の影響により、生産年齢人口が大きく減少し、まちの活力が減退しており、地域経済の再興が喫緊の課題であった。そこで、ICT 専門大学の会津大学と連携して、高付加価値産業であるICT 産業の育成、創出を通じた地域活性化に取り組むこととなった。

### Project Approach

社会課題解決のための  
実証フィールドの提供

生活にかかわる様々な分野で、ICT をツールとして活用し、住民サービスの向上、効果的な施策の展開を図るべく、従来の個別分野に限らない、他分野でもデータ活用ができるICT 基盤を整備。またテレワーク施設などICT 人材・企業の受け入れ環境を整備し、新たな産業の育成、雇用確保を目指している。

ICT オフィスビル AiCT  
ICT 関連企業の集積で新たな人の流入と若年層の地元定着のため500人規模の入居が可能なICT オフィスビルを整備。地元企業や市民との交流でインキュベーション創出の拠点としても期待。  
出典：会津若松市



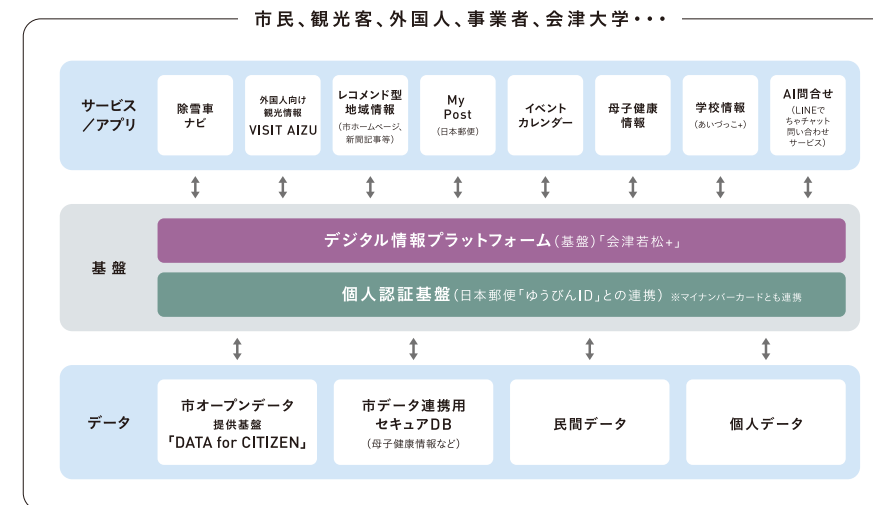
会津大学先端ICTラボ LICTIA  
会津大学は、コンピュータ理工学に特化した大学として県立にて設立された。同大学ではICT 企業の協力をうけ、会津若松市と連携してアナリティクス人材を育成している。  
出典：会津大学



### 市民・行政・企業が一体となって取り組むための体制

ICT 活用によるスマートシティの推進には、積極的な市民参加によるデータの蓄積及びプロジェクトの運営・サポート体制が重要となることから、市民参加型の産学官連携体制によるサービス提供モデルを構築している。具体的には、各産業分野の代表者、会津大学、会津若松市にてスマートシティのあり方をとりまとめ、実際のプロジェクト実施にあたっては、地元の企業等とも連携している。このほか、複数の大手ICT 企業とも協力関係を構築し、先進的なプロジェクトの提案を幅広く受けている。

### デジタル情報プラットフォームのイメージ



情報提供の共通基盤を整備することで、様々なアプリケーションの開発・機能拡張が可能になる。システムの共通化・標準化を図るスマートシティプラットフォームを開発することで、クラウド上での各種情報の相互連携を実現。  
出典：会津若松市

### Data

市域面積 383平方キロメートル  
事業主体 会津若松市ほか  
人口 11.9万人(2019年4月)

### To the Next Phase

2019年4月には、次世代を担うアナリティクス人材の育成と地域定着、先端ICT 関連企業の集積を目的に大規模なICT オフィス「AiCT」を整備し、首都圏一極集中の緩和及び地域の維持発展に向けた多面的な取組みを展開している。

